

国動向及び本日の説明内容等について

熊本市理事 兼 ワクチン統括監 井上 隆

1. 国動向(11月17日 開催 自治体向け説明会にて)

- ① 18歳以上の2回接種完了者すべてに対して、2回目接種完了から原則8か月以上経過後追加接種の機会を提供する。
- ② ワクチンは、1・2回目接種の際の種類に関わらず、ファイザーまたはモデルナ。R4.2～3月に約3,700万回を配分予定(ファイザー約2,000万回、モデルナ約1,700万回)
- ③ 小児(5-11歳)の新型コロナワクチンの接種については、小児の感染状況、諸外国の対応状況及び小児に対するワクチンの有効性・安全性を整理した上で議論する。

2. その後の国動向 (12月17日 自治体説明会より1か月経過後 時点)

- ① 12月6日 岸田首相 所信表明演説
 - ・「8か月後を原則としていたが、感染対策の万全を期す観点から、…モデルナを活用して、8か月を待たずにできる限り前倒しする。」⇒近々に前倒しの具体的内容が示されるものと推測
- ② 11月29日 ワクチン配分通知
 - ・3月までに必要な約25万回(人分)のワクチン配分通知あり。ファイザー6割、モデルナ4割。
 - ・ 交接種について(厚生労働省のQA)
(Q)「初回接種とは異なるワクチンを使用しても大丈夫でしょうか」

(A)「追加接種において、初回接種で使用したワクチンと異なるワクチンを使用すること(交接種を伴う追加接種)の効果や安全性を評価した米国の研究によれば、交接種を伴う追加接種の抗体価の上昇は良好であること、また、副反応に関しては、初回接種で報告されたものと同程度であり、交接種と同種接種で差がなかったと報告されています。
⇒モデルナワクチンが薬事承認されており、前倒し分、4月以降分のワクチン配分、交接種の安全性、免疫原性分析結果にかかる国民向けチラシ等広報物が発出されるものと推測。
- ③ 12月16日 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会(持ち回り)
 - ・小児接種に関する審議は行われていない
⇒今後、小児用ファイザーワクチンの薬事審査や、分科会での議論が進んでいくものと推測

3. 想定される見直しの例

※本日の説明資料には反映していません。熊本市が予想している動きです。

(例①)本来3月接種対象の高齢者について、2月接種へと1か月前倒し

(例②)職域接種(モデルナ)の企業申請結果を受けた、地方自治体へのファイザーワクチン供給割合増

(例③)春休みまでには小児接種開始を可能とする接種体制の構築

4. 説明にあたって

※12/18時点における本市の実施方針です。今後、国の示す方針やワクチン供給状況に応じ必要な見直しを行ってまいります。

※1.2回目の接種実績

(ファイザー)

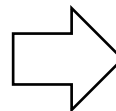
・(各医院)個別医療機関	約38万人	}	約8割
・(熊本市)集団接種会場	約8万人		

(モデルナ)

・(事業者)職域接種会場	約6万人	}	約2割
・(熊本県)広域接種会場	約4万人		

※3回目のワクチン配分

約6割



約4割

※追加接種や小児接種の詳細概要が不明な中、様々な意向調査をさせていただきました。お詫びと感謝を申し上げます。今後も、国の示す方針に沿った軌道修正が発生するものと思いますが、医師会事務局様のご協力もいただきながらできるだけ早い情報発信を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。